

第46回環境審議会計画部会での委員の発言要旨及び県の考え方・対応等

番号	発言要旨	県の考え方・対応等
【事前質問】		
1	D評価の数、満足度、重要度という観点からすれば、生活環境分野における施策の方向性の検討も必要ではないか？	生活環境分野の施策についても重要であり、今後、骨子案の作成に当たり検討していきたい。
2	県政世論調査結果(散布図)は、見やすくなったが、「どちらともいえない」が2か所ある点は気になった。	「どちらともいえない」の表現については、削除することも含めて検討したい。
3	水の重要性や水を汚さないことが一番の節水になるので、施策展開に「水循環教育の充実」を入れてほしい。	これまでも、県内小学生への節水副読本の配布や、環境キャラバン隊による「水生生物調査」、「水質調査」等の出前授業、夏休み親子環境学習講座でも、水の循環や海ごみ問題などについて講座を行っている。次期計画では、それらについて「1-2-1幅広い場における環境教育・環境学習の推進」の中で計画に盛り込みたい。
4	ごみの分別を指導する3R推進マイスターなどの人材育成が必要と思う。	これまでも様々な人材育成に努めているが、今後は、他の自治体の例も参考にしながら、ごみの分別の啓発を含めた人材育成を検討していきたい。

【散布図について】		
5	県政世論調査結果(散布図)で、「廃棄物の不法投棄対策」は、「どちらともいえない」というのが38.6%で全体の中で一番高い。県民が取組状況を十分にキャッチできていないことが要因ではないか。	項目によっては、「どちらともいえない」の回答が6割超のものもあるので、県の情報発信のあり方など検証していきたい。

【SDGsとの関連について】		
6	各施策とSDGsの関連は◎と○のように軽重をつけるべき。	軽重をつけることについて、可能かどうかも含めて検討したい。
7	SDGsの、「1 貧困」と「5 ジェンダー」が抜けていることは県の意識が欠けているのではないか。	県の次期総合計画の中でも、SDGsの達成に向けた考え方に基づいて作業を進めていることも踏まえて、環境基本計画の関連する項目が、SDGsの達成に貢献していくことを目指している。

番号	発言要旨	県の考え方・対応等
【各施策について】		
8	「県民一人ひとりが環境保全活動に参加するように促していく」について、県民一人ひとりが主体的に参加しようとする機運を高めるとか、意識を養成することが大切と思う。	「自発的な行動を促していく」ということについては、県民一人ひとりに働きかけていくことが、必要であるという認識を持っている。
9	「幅広い場における環境教育・環境学習の推進」で環境学習への参加とあるが、継続的に学ぶことができる場所が必要ではないか。	里海大学のように継続して人材育成をしている事業もあるので、育った人材がさらに普及啓発をしていけるよう、支援をしてみたい。
10	環境教育というのは、やはり報提供ということが大切だと思っており、施策の方向性の「幅広い場」に、機会ということも入ってくれば良いと感じた。「きっかけづくりの推進」はどういったことを指しているのか。	環境への入口を広げて、県民に環境がどのようなものか知っていただくための、環境学習会の開催や、企業と連携した情報発信などを指している。
11	施策体系について、言葉が分かりづらいと感じた。資料4の「1-2-1みどりづくりの推進」と「1-2-2里海づくりの推進」は、この二つが全体を総括する言葉な気がした。例えば、「みどりづくり」と「2-1-4森林整備と都市緑化の推進」とまた内容が違うのか？とか。「里海づくり」で言うと「5-2-3水環境の保全対策の推進」と施策がまた違うのかとかが気になった。	基本目標が5つに分かれており、1番が各分野にまたがる基盤整備・地域づくりということで、ベースになる部分となっている。主に人材育成とか、県民参加の促進とか、人づくりの基盤になるところであって、そのうえで2,3,4,5の分野の取り組みを進めていくので、若干重複するところがある。表現については、骨子案の中で更に検討したい。
12	「プラスチックごみ対策の推進」についてだが、プラスチック問題というのはプラスチックごみだけなのか。プラスチック製品自体を削減しないといけないと思う。これは消費者教育でもあるが、「ごみではなく資源」とか物の材料、素材についてきちんと理解をすればプラスチックを減らす行動につながると思う。	廃棄物処理計画等の中で、プラスチックを使わない講座や学びをどのように我々が提案していけるかということは、検討していきたい。
13	ペットボトルを間伐材が一部入ったエコ商品に変えるとか、製品を県で開発すると面白い。	商品化は難しいと思っているが、ペットボトルの代わりに紙パックを利用すれば、プラスチックごみの発生抑制、CO2削減になると考えられるので、まずはそういったところから取り組んでいきたい。

番号	発言要旨	県の考え方・対応等
【環境の将来像について】		
14	<p>「人と自然が共生する」というすごく限定的なことがここに来ている。 SDGsというのは非常に幅広い考え方なので、小さく感じるが、いろいろな施策をみていると、自然だけでなく生活環境とか省エネルギーとか、いろいろあるが、それらをすべてまとめて「人と自然」としているのか。</p>	<p>ここでの「自然」はエネルギーなども含む大きい意味で使用している。 美しい自然環境と人々が暮らす生活環境は、切り分けられるものではなく、密接な関係にある。 県民一人ひとりが環境に配慮した行動をとることが、自然を守っていくことにもつながることを意図したもの。</p>
15	<p>「人と自然」は、人の中に、都市化であるとか消費社会とか含まれ、それと自然とのつながりということであると思うが、そのように理解してもらえるのかどうか。</p>	
16	<p>「持続可能な香川」について、「持続可能」の後に県名や都市名がくるということはあまり聞かない。 持続可能の後には、社会とか未来とかが入ることが多く、「持続可能な香川」でもいいと思いがながら迷っている。</p>	<p>「持続可能な香川」は、この計画に掲げる環境施策を推進することにより、香川を持続可能な地域として、守り育てていくことを意図したもの。国の環境基本計画においても、SDGsの考え方を取り入れ、持続可能な地域を実現していくことを謳っており、北海道や千葉、愛媛などでは、本県と同様に「持続可能な」の後に県名を使用している。</p>
17	<p>「県民みんなで作る人と自然が共生する持続可能な香川」という将来像の言葉について、香川県がつくるのだから、香川とあってもいい。</p>	
18	<p>「持続可能な香川」とすれば、地球規模の中での香川の置かれている位置というよりも、香川に焦点化されてしまう。地球環境と逆行しているように感じられる。</p>	
19	<p>環境の将来像の表現について、次期総合戦略などでも使われている言葉として受け入れている。新しい表現として「持続可能な社会」と同じように「持続可能な香川」という言い方をしても、私は違和感がなかった。「人と自然が共生する」についても、抵抗なく受け入れている。</p>	
20	<p>「持続可能」という言葉が入って良かったと思っている。</p>	
21	<p>環境の将来像の表現についてですが、「持続可能な香川」という言い方に、違和感はない。</p>	